

～日本一のわかりやすさを目指して～
習志野版「新しい生活様式の実践例」

緊急事態宣言が解除され、新しい日常がスタートしました。国の諮問を受けて、専門家会議では5月4日に日常生活や働き方における“「新しい生活様式」の実践例”を示しましたが、分類や例示など、少しわかりづらい面があります。

そこで習志野市では、日本一のわかりやすさを目指して、6月15日発行の広報紙の1面で、「新しい生活様式の実践例」を提示します。

あしたのハーモニーが響くまち

習志野 2020 令和2年 6/15 No.1442

新型コロナウイルス感染症対策特集… 2
 お知らせBOX …… 4
 市民相談 …… 7
 広報まちかど特派員 …… 8

生活様式
あたらしいルール
 国が示した「新しい生活様式の実践例」をわかりやすくご紹介します。

Rule 1
 ノンコンタクト
非接触

【買い物】 電子決済を利用する
 【買い物】 サンプルへの接触は控えめに
 【食事】 大皿はやめて1人分ずつ盛り付ける
 【働き方】 会議や名刺交換はオンラインで

Rule 2
 ソーシャルディスタンス
適距離

【買い物】 レジでは前後にスペースを
 【食事】 多人数での会食は避ける
 【運動】 すれ違う時は距離をとる
 【娯楽】 狭い部屋に長居しない

Rule 3
 プランニング
計画的

【買い物】 お出かけ前に買う物を決めておく
 【買い物】 お店が空いている時間に、1人で
 【娯楽】 予約を活用してゆったりと
 【働き方】 時差出勤やローテーションワーク

Rule 4
 ドッチスブラッシュ
避飛沫

【電車内】 人混みでは会話をしない
 【食事】 向かい合わず、横並びで座る
 【食事】 会話は食後にマスクを着けて楽しもう
 【働き方】 対面の打ち合わせには換気とマスクを

※ドッチ=素早くよける

冷蔵庫などに貼り付けて活用してください 3ページでも感染症対策を紹介しています。健康支援課

お断り 新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、紙面で紹介したイベントの中止・変更、施設の休止・開館時間の変更をする場合があります。

裏面あり

【特長その1】 基本的な考え方を4つのルールに分類

専門家会議の実践例では、「感染対策」、「場面別の生活様式」、「働き方のスタイル」など、項目分類の定義づけが曖昧なため、わかりづらいです。

そこで、日常の行動の判断基準を、「**接触を避ける**」、「**距離を取る**」、「**計画的に行動する**」、「**飛沫を避ける**」の4項目に定義しなおし、買い物や食事などの生活の各場面で、具体的な実践例を覚えなくても、自分で判断できるようにしました。あわせて、この4つを瞬間的に知覚できるように、「**適距離**」、「**避飛沫**」などの漢字3文字でタイポグラフィ的に表現し、「**ソーシャル ディスタンシング**」、「**ドッチ スプラッシュ**」などカタカナ表記を添えました。

【特長その2】 46の実践例を、16に集約

専門家会議の実践例では、具体例を合計で46種類提示しています。わかりやすく表現されていますが、数が多いために頭に入ってきません。そこで、前述した4分類にあわせて具体例を再編集し、16種類に集約しました。日常生活のシーンに合わせて具体例を示すことで、基本的な考え方(4つのルール)を理解しやすいようにしています。

【特長その3】 「新しい生活様式」を「^{生活様式}あたらしいルール」と表現

専門家会議が提唱する「生活様式」という言葉は、一般的に耳なじみがなく、やや堅苦しい表現です。生活様式を和訳するとライフスタイルですが、今回の用法ではそぐわない印象です。

ウィズコロナ時代において、みんなが気をつけて守っていく社会的なルールと位置付け、「あたらしいルール」と表現しました。「ルール」という言葉には、規制するというニュアンスが伴うことから、「新しい」を「あたらしい」と、ひらがな表記することで柔らかい印象にしています。

市の広報課では、これらの工夫を通じて、「ウィズコロナ時代を生きていく上での一つのヒントになれば」と考えています。

※添付資料:新型コロナウイルス感染症対策専門家会議提言「新しい生活様式」の実践例

【問合せ】政策経営部
まちづくり広報監 月村 尚也
広報課担当:高島 智加
電話:047-453-9220

